

福祉にいがた

Fukushi Niigata

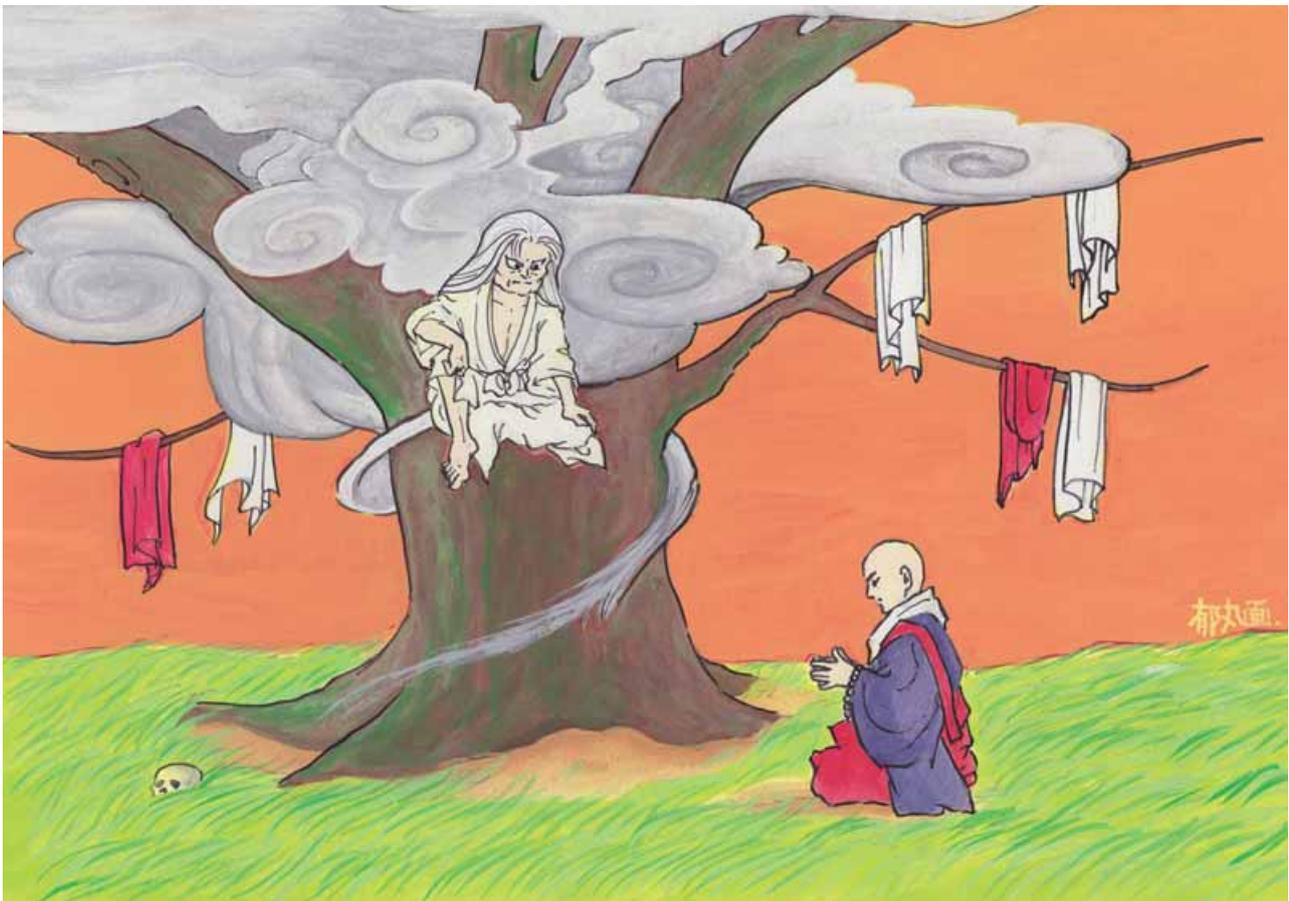
CONTENTS

巻頭特集

柏崎市で市町村社協会長研修 (2・3面)

- 県災害福祉広域支援ネットワーク協議会と県が協定締結
- 福祉・介護・健康フェア 今年には県内3会場で開催予定

10月号
2017
第782号



絵 高橋 郁丸「ヤサブロボサ」(漫画家・新潟市中央区)・文 11面

柏崎市で市町村社協 会長視察研修

9月14、15の両日、柏崎市で「市町村社会福祉協議会会長視察研修」が行われました。今年で3回目の開催です。新潟県社協・竹内希六会長をはじめ、25社協会長らが柏崎市社協の意欲的な取り組みを学び、意見を交わしました。

何でも食堂、日常生活自立支援… 地域で安心して暮らす取り組み学ぶ

初日はかしわざき市民活動センター『まちから』からスタートしました。

竹内会長が「地域福祉を学び連携を深め、地域活動に役立つように実り多い研修にしてほしい」と開催に意義を強調。柏崎市の櫻井雅浩市長が「それぞれ悩みを抱えていることだろうが、社協への信頼と期待は



開催意義を述べる竹内・県社協会長



歓迎のあいさつをする本間・柏崎市社協会長

大きくなっている。研修会が社協活動の一助になることを期待したい」と歓迎の言葉を述べ、地元・柏崎市社協の本間厚幸会長が「前に進むきっかけになってほしい」とあいさつしました。研修会は柏崎市社協の高橋昭彦常務が「柏崎市社協の歴史とこれからの姿」など概括的な説明を行い、続

いて柏崎市社協の意欲的な取り組みが具体的に紹介されました。

まず、地域福祉課の小竹成直課長代理が「第三次柏崎市地域福祉活動計画策定プロセスと概要」と「こども食堂への取り組み」を取り上げ、社協としての子ども食堂に取り組む姿勢や開催時の様子などについて画



高橋・常務理事が総括的に紹介



意欲的な取り組みや報告に各社協会長は真剣に耳を傾けた

像を交えながら説明しました。

また、地域福祉課の大塚真光子課長代理は、「日常生活自立支援事業」や「成年後見制度普及啓発等事業」などの取り組みについて報告。この中で、職員から社会資源の開発の提案があったら上司は背中を押して欲しいと強調、さらに「職員の心の元気が一番、笑顔で帰れるように努めてい



大塚・課長代理が生活支援事業について詳しく説明



会場からは活発な質問が出された



小竹・課長代理が説明

る」と難しい事例に日々直面している職員の精神的なケアの大切さにも触れました。

柏崎市社協の報告の後には質疑・意見交換が行われ、こども食堂の運営方法について参加された会長から質問が投げかけられ、関心の高さがうかがえました。

最後に、今年の中越沖地震から10年に当たることから、復興へ向けた若者の取り組みなどをまとめた映像が上映されました。

地域福祉実践の展開で意見交換

2日目は、宿泊先のじょんのび村をマイクロバスで出発、柏崎市社協が指定管理をしている「高齢者生活支援施設結の里」と「北条デザイナービスセンター」を視察し、柏崎市総合福祉センターに場所を移して研修会を再開しました。

立正大学講師の川本健太郎氏が「市町村社会福祉協議会と地域福祉事業」と題



講師の川本氏から、福祉政策の方向性など意見交換のために基調講演

して地域福祉実践の展開方法について講演。「社協が協議体の機能として、困難な人達の個別ケースを受け止める機能、地域包括ケアの中心的役割を担えることなどが望まれている。また、地域福祉計画や活動計画が有効に活用されているのか、それに基づいてプランニングビジョンを定められているのが重要だ」と話しました。

「健康ビジネスサミットうおぬま会議 2017 in 新潟市」開催

健康・医療・福祉関連分野で付加価値の高いビジネスが創出されるよう、企業・大学・行政などの関係者が議論や交流を通じ、繋がりを広げることを目的に開催します。

期 間 平成 29 年 **10 月 26 日 (木)・27 日 (金)**

会 場 新潟ユニゾンプラザ (新潟市中央区上所 2 丁目 2 番 2 号)

主 催 新潟県、(一社)健康ビジネス協議会

主な会議・セミナー

- 基調講演「ヘルスケアビッグデータの活用に向けた現状と課題について」
講師：オムロンヘルスケア(株)経営統括部 渉外担当部長 鹿妻 洋之氏
- 一般向けセミナー「健康長寿への取り組み」
講師：国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所理事 兼 国立健康・栄養研究所所長 阿部 圭一氏
- ビジネス会議、健康関連産業展示コーナー

参加費 無 料

申込方法 健康ビジネスサミットうおぬま会議ホームページ (<http://www.uonuma-conf.jp/>) からお申し込みください。締切り 10 月 20 日 (金)。

問合わせ先 新潟県産業労働観光部 産業振興課 新分野育成係 電話 **025-280-5718**

赤い羽根 共同募金運動スタート

今年で71回目を迎えた共同募金運動が10月1日からスタートしました。今年の目標額は4億7376万2千円です。

共同募金は障害者の自立支援をはじめ、地域福祉の推進を応援しています。

「じぶんの町を良くするしくみ」共同募金にご協力をお願いします。

ポスターデザインは 石栗さんの作品を採用

今年度の共同募金ポスターは新潟市在住の石栗仁之さんの作品を採用しました。



この作品は一見すると淡彩の風景画のようですが、よく見ると作品全体が迷路として描かれています。

石栗さんは小学生の頃から友人が書いた迷路を見たことをきっかけに迷路をモチーフとした作品を描き続けています。

平成28年度新潟県障害者芸術文化祭絵画部門で「僕達の世界の銀河系」と題した作品で県知事賞を受賞しました。



県遊技業協同組合寄付金 による障害者支援施設 移送用車両を助成

8月8日、県遊技業協同組合寄付金による障害者支援施設への車両助成交付式が行われました。

交付式では、県遊技業協同組合の佐藤孔一理事長が「今後とも組合として地域の社会貢献活動を推進していきたい」とあいさ



所「ふれんどりーミルはまなす」(上越市)へ助成の目録を贈呈しました。

つされました。当会の小田会長から、障害者支援施設「太陽の村」(新潟市)と就労支援事業



いっばいの愛をありがとう! (地域助成事業の紹介)

【いちよつ食堂】運営

上越市社会福祉協議会上越分会
共働きが増えている昨今、子どもたちの孤食、貧食が常態化しています。安心して過ごせる場を提供し、新しい友達や地域の大人との関わりにより、子ど

もたちの心と体の健康の増進を図ります。(助成額 10万1千円)



【いごばた喫茶おいで家】運営

羽村社会福祉協議会
村内の地区集会場や老人福祉センターを会場として、ぶらりと出掛けられる居場所づくりや地域間の交流を目的として開催しています。(助成額 90万円)



福祉の店 味わい散歩

ワークセンターふじみ

社会福祉法人新潟市中央福祉会

(新潟市東区藤見町1-4-43)

◇9時～17時(パン販売は11時から)

◇土・日・祝日休み

◇TEL (025) 2100



心を込めて作るリトルベア

リトルベアの愛称でクッキーとラスクの焼き菓子とパンを製造・販売をしています。材料は特別なものではありませんが、日々25人ほどの利用者が、それぞれの持つ力を生かして丁寧に心を込めて仕上げています。直販に力を入れ、地域

とのつながりを大切にしています。お客さんからの「この前のクッキーかわいかったよ。おいしかった」と掛けられる声が利用者のやりがいに結びつくそうです。

ごまの風味豊かでサクサク感と優しい甘さ、形もウサギやチュウリップなどがあり、目でも楽しめます。ギフト用のキャラクタークッキーや季節によつてカボチャ味なども販売されています。自家製パンを使ったラスクは3種類を製造、スライトポテトなど季節限定の風味も楽しめます。



人気は「ごま・アーモンド」。前身の福祉作業所時代から作っているもので、第2回ユニバーサルベーキングカップ焼き菓子部門で金賞に輝いた製品です。

パンは毎日焼きたての400～450個を届けています。おいしく食べてほしいとの願いから、賞味期限は当日限りです。県産米を使った米粉ロールも人気商品です。ユニゾンプラザ1階のパレットでも購入できます(月・水曜日)。

福祉NEWS

2017年8月11日～2017年9月10日

■ 介護士志望 在留資格追加で留学生急増

介護の国家資格「介護福祉士」の取得を目指す留学生が急増。専門学校などの養成校に今春入学したのは全国で計591人と、統計を取り始めた2012年度の約30倍で、入学者全体の1割近くに上る。9月に施行された改正出入国管理・難民認定法で在留資格に「介護」が加わり、新たに介護福祉士になった外国人は、最大5年の在留資格が得られ、繰り返し更新できることが背景にある。

■ 県内児童虐待1,845件 3年連続過去最多

県内の児童相談所が2016年度に児童虐待の相談を受けて対応した件

数は1,845件(速報値)に上り、3年連続で過去最多を更新したことが、県のまとめで分かった。前年度に比べると407件(28%)増えた。心理的虐待が最も多く、全体の半分以上を占め、両親のドメスティックバイオレンスを見た子どもがストレスを受ける「面前DV」という虐待の増加が目立った。全国の児童相談所が2016年度に対応した件数も12万2,578件(速報値)となり、過去最多となったことが8月17日、厚生労働省のまとめで分かった。

■ 待機児童 3年連続増

厚生労働省は9月1日、認可保育所などに入れない待機児童が、今年4月時点で昨年より2,528人多い2万6,081人だったと発表し

た。増加は3年連続。女性の就業が進んで利用申し込みが増えた上、待機児童の定義見直しで保護者が育児休業中のケースの一部を対象に加えたことも影響した。新潟県は新潟市の2人だった。

■ 自治体の4割 運営苦慮 ～軽度介護事業～

今年4月までに介護保険から切り離され、市区町村事業に移行した軽度の要介護者向けサービスに関する共同通信の調査で、回答した1,575自治体の45%が運営に苦慮していることが8月18日、分かった。ボランティアら担い手の確保ができていないことが主な理由。地域住民が支え合う仕組みづくりの難しさが浮かび上がった。

伊勢ヶ濱部屋関取衆 更生慈仁会を訪問

お年寄りらと大きな手で握手

弥彦村で夏合宿中の伊勢ヶ濱部屋の関取衆らが8月21日午後、新潟市西区の社会福祉法人更生慈仁会を訪れ、大きな手で握手するなど、お年寄りや障がいのある人、保育園児と交流のひとつを過ごしました。

この日同法人の特別養護老人ホーム「はまゆう」食堂にやってきたのは、横綱・日馬富士関をはじめ、安美錦関、宝富士関らテレビの相撲中継でおなじみの面々。30分ほど遅れての到着となりましたが、心待ちにしていたお年寄りらは大きな拍手で迎えました。派手な飾りの付いたうちわも振られ、演歌歌手などのコンサートのようでもありました。

あいさつに立った日馬富士関は「楽しみにやってきました。良い思い出を作りました。」



華やかな歓迎の飾りが施された「はまゆう」の食堂で、ひとときの楽しい交流

「たい」と話し、安美錦関は秋場所に向けて「応援してください」と笑顔で話しかけました。この後、日馬富士関らがお年寄りらの中に入っただけの握手会。保育園児らは大きな体の関取を取り囲んでタッチしていました。



笑顔いっぱいでお年寄りさんと触れ合い



身を乗り出して日馬富士関と握手

す。伊勢ヶ濱親方は今年、「新潟市観光大使」に委嘱されています。

食品の提供をお待ちしています

～10月はフードドライブ強化月間～

フードバンクにいがたでは、支援先が増加し食品が不足しています。そこで10月を「フードドライブ強化月間」として、企業や家庭で余っている食品の提供を募集しています。一層のご理解・ご協力をお願いいたします。

フードドライブとは、家庭や企業で余っているお米・缶詰・レトルト食品・調味料・防災食品などを寄贈していただき、食品を必要としている生活困窮者支援団体、児童養護施設、障がい者・高齢者施設のほか社会福祉団体に食品を無償で届ける活動です。

詳しくは下記までお問い合わせください。

<問い合わせ先>

〒950-0965 新潟市中央区新光町6番地2 勤労福祉会館4階

フードバンクにいがた (担当: 真木)

TEL: 025-384-4466 FAX: 025-384-8224

e-mail: fbn@roukyou.gr.jp



民間福祉施設の火災や災害、防災に備え備品整備に助成 平成29年度社会福祉基金運用益活用助成事業

新潟県社会福祉協議会では「新潟県社会福祉基金」（県社協設置）の運用益を活用し、県社協会員の救護施設、障害者支援施設（施設入所支援）ならびに障害者共同生活援助（グループホーム）に、火災や災害に備える発電機、防災カーテン、ヘルメットなどの防火・防災備品整備や防犯カメラなどの防犯備品整備へ19施設約300万円を助成します。

No.	施設・事業所名	備品名	助成額
1	救護施設かしわ荘	ポータブルトイレ、テント	80,000
2	桜花園	緊急放送設備	190,000
3	コーラス日和山	防災カーテン、防犯センサーライト	150,000
4	桐樹園	ポータブル発電機、ヘルメット、ヘルメットハンガー	190,000
5	障害者支援施設 かたくりの里	ポータブル電源、防犯ブザー	60,000
6	障害者支援施設 宝珠苑	防犯カメラ、機器取り付け調整費、電気費	200,000
7	さざなみ学園	防災カーテン	190,000
8	もぐらの家	AED	200,000
9	障害者支援施設 心和園	ポータブル発電機	120,000
10	障害者支援施設あさひ園	イワタニカセットフー（CB-KZ-1-A）	50,000
11	障害者支援施設さいはま園	エアーストレッチャー	200,000
12	障害者支援施設第二いずみの里	HONDA発電機（EU24I）	200,000
13	ぐるーぱほーむクローバー	防災セット（救急手当てセット、ラジオ、LEDライト、非常用簡易トイレなど）	90,000
14	こごみ荘	発電機	180,000
15	つばくろの里	防犯カメラ	200,000
16	障害者支援施設 みのり園	防犯カメラ、取り付け調整費用	170,000
17	新潟みずほ園	防犯センサーライト（2灯タイプ）、スタンド付きLEDライト	110,000
18	第2みずほ園	車椅子3台（自走式2・介助用1）、サーチライト、投てき用消火剤	130,000
19	太陽の村	自動体外式除細動器（AED）	200,000

ひとつの要素



「この日々がずっと続けばいいな」。誰しも一度は思ったことがある。「夢の夏休み」が今年も終わりを告げた。日差しは落ち着き、残暑の生ぬるい風が髪を揺らす。波の音にどこか懐かしさを感じつつ、今は秋独特の風と香りがしつくりくる。

この時期、誰と訪ねたかはもう思い出せないが、いつぞやの10月に紅葉の名所に行ったことが頭をよぎる。そこには真紅や銀朱、だいたい色色と黄色をばらまき、一帯をキャンバスに見立て、規則性もなく思うままに絵筆を走らせたかのような景色があった。

見渡す限りその風景は続いている。ビルなんてものはない。見上げれば雲は高く、少しだけ冷たい風が顔を包む。「見えるもの」「聞こえるもの」「香るもの」……。すべてのピースが心地よい。そして時がたてば夕焼けが町や景色をあかね色に彩り、オレンジが青を包み込み、紫がかった全く違う景色に生まれ変わった。

一つの要素が混じり、違うものを見せてくれるのは自然風景だけではない。普段対峙しているものに対して少し色を加え、見方を変えると、それが思いがけず化学反応を起こしぴたりハマることがある。既存のものさしに当て込むだけではなく、物事に合わせて新しい見方・計り方を見つけ、チャンネルをうまく合わせていける生き方を学びたい。

（三青）

福祉・介護・健康フェア2017 今年も10・11月に県内3会場で開催

6年目を迎える「福祉・介護・健康フェア」。住み慣れた地域で安心・安全、そして健康に暮らしていただける一助となることを目的に

新潟県社会福祉協議会・新潟市社会福祉協議会・新潟日報社の主催で今年も11月19日(日)に朱鷺メッセで開催します。

今年のテーマは昨年に引き続き「安心できる暮らしを提案し、明日のためにできること、地域包括ケアシステム」とし、数多くの出展やイベントがあります。恒例の著名人のトークショーはもちろん、専門家によるセミナー、介護や健康などに関する最新の商品やサービスを紹介する「情報展示コーナー」、

親子に人気の「子ども広場」や幅広い世代で楽しめる「体験コーナー」など一日中楽しめる内容となっています。

また、これに先立つ11月5日(日)には、アオーレ長岡でも2年目となる同様の「福祉・介護・健康フェア」を新潟県社会福祉協議会・



さまざまな企画で盛り上がった昨年新潟会場



メインステージで行われた講演会には多くの来場者が訪れた(新潟会場)

長岡市社会福祉協議会・新潟日報社の主催で開催します。

さらに今年初めて、10月28日(土)に上越市のオーレンプラザでも「福祉・介護・健康フェア」を開催します。県内3会場で「地域で安心・健康に暮らしていただけるヒント」を皆様にお届けし、生活の質をより高めていくための情報を発信します。

	日時	会場
新潟会場	11月19日(日曜日) 9:30～16:30	朱鷺メッセ・ウエーブマーケットほか (新潟市中央区万代島)
長岡会場	11月5日(日曜日) 9:30～16:30	アオーレ長岡・アリーナほか (長岡市大手通1)
上越会場	10月28日(土曜日) 9:30～16:30	上越市市民交流施設高田公園オーレンプラザ・ホール (上越市本城町8)

寄付ありがとうございました

(敬称略)

日付	寄付者	寄付・寄贈
平成29年8月31日	(株)国際資源リサイクルセンター	1,118円
平成29年8月31日	株式会社 大庄	534,192円

県災害福祉広域支援ネットワーク協と県が協定 災害時要配慮者を一体で支援

新潟県社会福祉協議会をはじめ県内の13福祉団体でつくる「新潟県災害福祉広域支援ネットワーク協議会」と新潟県は9月12日、「災害時における要配慮者支援に関する協定」を結びました。県の要請を受け、

福祉専門職の「災害福祉支援チーム」が被災地に入り、専門性を生かして高齢者や障がいのある人たちのニーズの把握やケアに当たります。

県庁で締結式が行われ、県社協・竹内希六会長と米山隆一県知事が協定書に署名しました。同様の協定は全国15例目となります。

ネットワーク協議会は、県社協と県老人福祉施設協議会などの事業団体と県社会福祉士会などの職能団体などで構成。東日本大震災の教訓を基に協議会を立ち

上げ、災害時要配慮者を支援するチームを県内5カ所に設け、発生地域や範囲などに応じた派遣を迅速・的確に行います。介護福祉士など合わせて67人が活動する態勢を整えています。

県社協・竹内会長は「県・市町村と一体となった支援チームの全体的な運用が実現した。今後もチームの体制強化を図り、その役割を果たしていきたい」とあいさつしました。



迅速な支援体制を改めて誓う、竹内会長(前列左から3番目)と米山知事(前列左から2番目)と福祉団体関係者

上越市で新潟県・上越市総合防災訓練 福祉避難所とボランティアセンターの役割アピール

平成29年度新潟県・上越市総合防災訓練が、晴天の9月2日、上越市の県立看護大学を主会場に行われました。訓練は、地域住民の防災意識高揚を図り、住民と防災関係機関との連携や協力体制強化を目的として毎年開催しています。今年も約1,400人が参加し災害時に備える心構えを新たにしました。

午前8時30分、携帯電話のエリアメールが一斉に鳴り響き、「高田平野西縁断層を震源とするマグニチュード6.8の地震が発生、上越市で震度6強を観測。新道地区を中心に住宅倒壊、火災などが多数発生、土砂崩れなどにより孤立集落も発生している」との想定で訓練が始まりました。上越市指定避難所となっている看護大体育館には地

域住民が避難。新潟県社会福祉協議会など13福祉団体で構成する「新潟県災害福祉広域支援ネットワーク協議会」の先遣活動チームが避難所支援を想定した訓練に当たり、住民に災害時における、ネットワーク協議会の災害福祉支援チームの体制や福祉避難所の役割などをパネルやチラシで解説、その重要性をアピールしました。



訓練参加者に福祉避難所などについて説明

また主会場の看護大駐車場では、県社協と上越市社会福祉協議会などが災害ボランティアセンターを立ち上げ、受け入れ体制の確認や住民らのボランティア登録体験も行われました。

主会場には災害対策本部が置かれ、バイク隊による救援物資の搬送や衛星通信システムによる被災映像送信などの情報収集・伝達などの訓練が展開されました。



視察の米山隆一県知事に災害ボランティアセンターの必要性などを説明

“こんにちは”民生委員・児童委員です ～民生委員制度創設100周年を迎えて～



Vol.10 地域を応援 三条市栄地区

登校時、みんなで絆深めるハイタッチ

三条市栄地区民生委員児童委員協議会は、三条市の南西方面に位置し、旧栄地区で小学校3校、中学校1校を担当しています。民生委員・児童委員は、主任児童委員2人を含めて、合計20人(男性14人、女性6人)で活動しています。

あいさつ運動推進

学校での活動としては、各学校訪問時に学校の現況などについて意見交換をしています。

小学校においては、先生方はじめ、PTA役員や応援に駆けつけた栄中学校生徒と一緒に登校時に「ハイタッチ」をしてのあいさつ運動を実施しています。中学校では、夏休み前の体育系部活動の郡大会、県大会への激励会にも参加し、微力ながらも応援をさせてもらっています。



ハイタッチであいさつ運動

近郷の協議会と連携

毎年下田地区や大島地区など、近郷の民児協と合同例会を実施しています。今年度は、下田地区が担当で、「みんなで考える、認知症」と題した講演を聞き、そのあと、例会としてそれぞれの協議会での活動状況や問題点を話し合いました。

災害時の備え学ば

梅雨時を迎えた6月。三条市では、過去2度も水害の苦い経験をしているので、防災関連施設の見学研

修を行いました。

午前中に下田地区にある「真宮笠堀ダム」を見学。県職員からダムのかさ上げ工事の意義やダムの利水と治水としての役割など、詳しく説明をしていただきました。

その後、三条防災ステーション内にある市水防学習館を訪れ、平成16年と23年に発生した水害の記録写真を見たり、水圧の疑似体験や非常持ち出し品などを学習しました。午後からはNHK新潟放送局を訪れ、さまざまな災害時に対する放送マニュアルや普段疑問に



NHK新潟放送局見学

思っている放送関係のことなどを伺ったりし、一日を終えました。

福祉施設で草刈り

地域福祉活動として年2回程度、特別養護老人ホーム2か所を訪問しています。6月は、早朝から大きくなった草木をエンジン付きの刈り取り機で、主に敷地の外周りをきれいにしました。また、8月は、例会終了後、小鎌を使用して玄関周りや中庭の草取りをして、利用者の方々から大変喜んでいただいています。



福祉施設での草取り

三条市栄地区

民生委員児童委員協議会

会長 長谷川 勝榮

新潟の妖怪

弥三郎のお婆さんが妖怪になってしまった。人間から妖怪になり、天女となった進化系の存在の婆である。この弥三郎に関してはいろいろな説がある。魚沼方面に残る伝説では弥三郎は獵師で、獵に出たまま行方不明になり、乳飲み子を抱えた嫁は亡くなり、残された孫も餓死し

ヤサブロバサ 改心し子を守る天女となった鬼婆

てしまう。弥三郎の母親は孫の死を悲しみ、抱いているうちに食べてしまう。ついには人を食らう鬼婆となってしまった。

弥彦に伝わる話は、弥彦神社の造営にまつわる話で、もともと鍛冶屋が建前をしていたのに、大工が執り行うこととなり、鍛冶屋である弥三郎家は面目を失う。それに腹を立てた母が杉の木（婆々杉・天然記念物）の下で悶死、鬼婆になったという話。婆は子をさらって食べたり、

亡くなった悪い人を見せしめのために枝に引っ掛けた。奪衣婆的でもある。

保元元（1156）年、典海大僧正がヤサブロバサに説法、妙多羅天女の称号を与えると、改心して子を守る天女となったという。ヤサブロバサは行動半径が広く、異説も多く、彼女が鬼婆となるほどの苦しみの原因が何であったかはわからない。ただ、弥彦の寶光院に祀られている妙多羅天女がすべてのバサの終着点であるようだ。寶光院妙多羅天女の御

開帳は10月15日。御開帳時に見られる彼女の姿は天女とはかけ離れた恐ろしさだが、悲しみをたたえた目をしており、どんな悩み事も聞いてくれそうだ。婆々杉は寶光院の裏にある。

文・絵 高橋 郁丸

（新潟県民俗学会理事・

新潟妖怪研究所長）



新潟ユニゾンプラザ 情報

◆主な貸室の紹介 【特別会議室】



【定員】 60人
【広さ】 186㎡
(カーペット敷)

スクール形式では最大60席でのご利用が可能です。

また、口の字形式など目的に合わせたレイアウトで、各種セミナーや面接・筆記試験会場、社内外の会議など幅広くご利用いただけます。



貸ホール・貸会議室は新潟ユニゾンプラザへ

多目的ホール・会議室・研修室など用途や規模にあわせてご利用いただけます。

無料の専用駐車場（220台）を完備しております。

◆貸室の利用申込方法

ユニゾンプラザホームページよりお申し込みください。貸室の予約状況も公開しています。

URL : <http://www.unisonplaza.jp/>

【中研修室】



【定員】 80名
【広さ】 236㎡

会議・セミナー・教室など幅広い用途にお使いいただけます。

跳ね上げ式テーブルにより、配置換えの移動も容易にできます。

福祉の現場

切替 敦子さん
(合同会社LINK代表)

No.24



阿賀町の空き家になっていた実家を活用し、「地域の茶の間『みんなの家』」を今夏から始めました。
かつて仕出し屋で食品や日用品も扱い、地元の人たちが集まる商店でした。併せて、祖母が一人暮らしを支えてくれた人々に対し、「おいしい物をいつもありがとう」といった感謝のメモなどを各所に残した家でもあります。それだけに、「地域の皆さんに恩返しをしたい」。その気持が大きな柱となっています。
思うように動けなくなった顔なじみのお年寄りらが、ちょっと集まれる場が作れないか…。そんな思いに同級生らが手を挙げ、コアメンバー

古里への恩返し。実家で居場所を開設

としてバックアップしてくれています。さらに、地元社会福祉協議会や行政、区長らの手助けを得ての開設でした。
今は新潟市から通い、月1回の開催ですが、月2回に増やすことも視野に入れています。告知チラシは、なじみのある旧店名で「関川商店で会費300円」となっています。お茶を飲むだけに留めず、管理栄養士や看護師、薬剤師、リハビリの専門家を招いた講座も続ける予定です。
2年前に独立、介護支援専門員と社会福祉士の仕事に励んできました。とりわけ地域に目を向けた活動に力を入れたと考えて、その具体化の一つが『みんなの家』です。ボランティアを含めた助け合いの仕組みづくりなど、拠点とした諸活動にも意欲を燃やします。
子育てが一段落し、自身の将来を考えたとき、「探してきた仕事はこれ」と独学で福祉の道へ。「人が好き。人と人を繋ぐ仕事がしたい」。会社名「LINK」にはその強い思いが込められています。

新潟ユニゾンプラザ ライブラリー NEWS



介護殺人
追いつめられた家族の告白

◆著者：毎日新聞大阪社会部取材班
◆発行：新潮社

インパクトのあるタイトルで目を引きますが、介護にまつわるトラブルは誰にでも起きうる問題です。
家族の絆が悲劇に変わる「魔の瞬間」は避けられなかったのか。「加害者」となってしまった家族本人の生の声を聞き、間近にいた関係者への取材も重ねて明らかにされた、在宅介護の現実の一面…。読書の秋に、少し読み応えのある1冊を紹介いたします。

◆ご意見・感想お寄せください

- ◆「福祉にいがた」について、ご意見、ご感想、知りたいテーマなどございましたら左記までお寄せください。
〒950-8575 新潟市中央区上所2-2-12
新潟ユニゾンプラザ3階 新潟県社会福祉協議会企画広報課
ファクス 025-281-5528
- ◆Eメール oasissu@fukushininigata.or.jp

問い合わせ 新潟県社会福祉協議会 新潟ユニゾンプラザ図書情報ルーム ☎025-281-5514

一紹介した資料のほか、福祉や女性に関する図書やDVDの貸出をしています

この機関誌は、
赤い羽根共同募金の
助成を受け発行しています。



発行所／社会福祉法人 新潟県社会福祉協議会
新潟市中央区上所2-2-2ユニゾンプラザ
☎ 025-281-5584
発行人／関谷 政友
定 価／5円 (会員の購読料は会費に含む)

福祉にいがた
平成29年10月1日発行 (毎月1日発行)
昭和27年9月16日 第三種郵便物認可
印刷／島津印刷㈱